

育成を目指す資質・能力

リズム、音色、強弱、速度などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。

ICT活用のポイント

- 学習支援ソフトの提示機能を使い、曲を何度も聴いたり必要な資料を提示したりして、効果的に教材を示し理解を深めることができる。
- 学習支援ソフトの共有機能を使い、音楽の要素に着目して、感じ取ったことを表現したり表現したことを共有して理解を深めたりできる。

事例の概要

①「動物の謝肉祭」の曲を聴き題名あてクイズを行うことでめあてをつかむ

曲想を生み出している要素について理解を深め、見通しをもつ

②「白鳥」を聴き作曲家や楽器などの写真などを提示し理解を深める

③「白鳥」を聴き、要素に着目しながら感じ取ったことを個別に表現する

④「白鳥」を聴き、感じ取ったことをペアや全体で共有し、理解を深める

【事例におけるICT活用の場面①】

学習支援ソフトのシートに、組曲の中の4つの曲を挿入し題名の選択肢を示したカードを作成する。クイズでスクリーンに映し、曲の再生や解答の提示を行う。

【事例におけるICT活用の場面②】

学習支援ソフトのシートに、作曲家・楽器・白鳥の写真等の資料を作成する。スクリーンに映し、教師の説明、板書とともに資料として提示する。

【事例におけるICT活用の場面③】

学習支援ソフトで2種類のワークシートを作成・配付する。児童は自分に合ったワークシートを選び、要素と結びつけながら感じ取ったことを記述する。

【事例におけるICT活用の場面④】

記述したことをICT端末を持ち運び、ペアで交流する。その後、スクリーンに映して全体で交流する。学習支援ソフトのワークシートに振り返りを記述し、提出する。

【音楽・小4・「旋律の特徴を感じ取ろう」②】

【ICT活用の場面①「めあてをつかむ」】 <提示>



4つの曲を挿入し、解答の選択肢を示したシートを作成する。全体に提示し、「題名あてクイズ」のやりとりに従って簡単に曲の再生や解答のカード操作ができる。

曲から感じ取ったことは音楽を形づくっている要素（リズム・音色・強弱・速さ）と関係があるんだな。

【ICT活用の場面②「見通しをもつ」】 <提示>



作曲家・弦楽器・白鳥の写真等を資料として作成する。全体に提示し、児童により具体的なイメージをもたせるとともに、教師は、教材を保存・共有して活用することができる。

作曲者のサン＝サーンスは「白鳥」のどんな様子を音楽に表そうとしたのかな。

【ICT活用の場面③「個別に解決する」】 <共有>

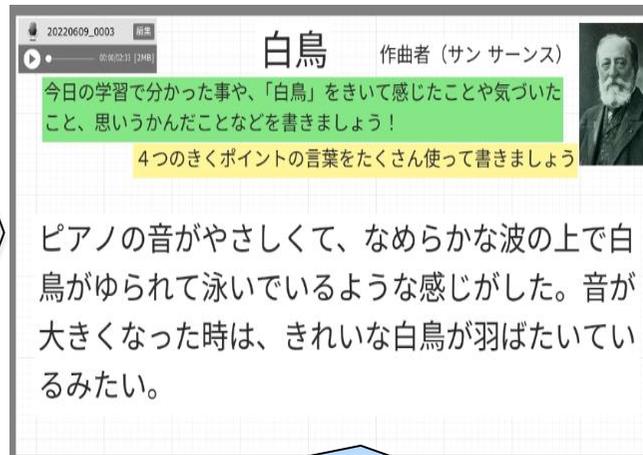
リズム	音色	強弱（音の大きさ）	速さ
ゆったり ゆっすり	やわらかい 力強い しっとり	はく力ある 大きい	ゆっすり
細かい かるやか	やわらかい きれい 優しい	小さい しずかな	少しはやい
リズム	音色	強弱（音の大きさ）	速さ
やわらかい	なめらか ゆっすり	大きいときと小さいときがある	ゆっすり
震える			
やさしい	おおまか	小さい	チェロにあったはやさ

個別に感じたことを記述する。教師から要素のヒント無し・有りの2種類のワークシートと既習の学習のシートが配付され、児童は自分に合った資料を活用し課題を解決できる。

上段：ヒント無し
下段：ヒント有り

4つの要素に結び付けて考えると、曲の表す情景や工夫がよりくわしくわかるのだな。

【ICT活用の場面④「交流し振り返る」】 <共有・蓄積>



記述したことをペアや全体で交流する。教師も児童も、考えを把握・共有しやすい。ワークシートや振り返りのデータを蓄積し変容や成長を見取り、評価に生かすことができる。

ピアノの音が湖のおだやかさも表しているのだな。チェロの強弱から白鳥の様子が想像できるんだな。

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト（提示・共有・蓄積）